

## 令和5年度 大阪成蹊短期大学 卒業証書授与式 学長式辞

今年の冬は比較的暖かく、野も山も春化粧を始めたように感じます。まさに、春光天地に満ちる季節となりました。

この佳き日、大阪成蹊短期大学は、只今475名の皆さんに、卒業証書・学位記を授与いたしました。

日頃よりご支援を賜ります学園後援会黒田会長様、蹊友会藪田会長様をはじめとして、多くの役員の皆様方にご臨席を賜り、巣立ちゆく学生達の門出を祝福していただきましたこと、心よりお礼を申し上げます。このように厳かかつ盛大に、学位記授与式を挙行できますことは、本学にとって、この上ない喜びであります。

また、卒業にいたるまで、一人一人の学生を支えてこられた保証人様やご家族の皆様には、その力強いご支援に敬意を表しますと共に、本学の教育活動にご理解を賜りましたことにも、感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの学生生活にはコロナ禍の影響が残っていたでしょう。その中、各学科の学びで専門的な知識と技術を身に付けられ、資格取得や検定の合格を目指されてきたことと思います。更に、様々な教育活動での主体的な学びに加えて、グループでの協同学習や探求活動に取り組んだ中で、友人や先生との関わりを通じて、本学の「桃李成蹊」の建学の精神、すばらしい人には人が集まり小径ができるという教えのとおり、誠実さや思いやりを持つ、心豊かな人に成長してくれたのではないかと考えています。

さて、社会を見ると、異なる文化や宗教など社会には多様な考えと価値観が存在しています。また、個人には異なる生活歴を背景として、様々な価値観を持っているでしょう。とりわけ、すべての人が最も大切にしている価値は、言うまでもなく「生命の価値」、「平和の価値」ですが、2年前のロシアによるウクライナ侵攻では、現在も多くの人々の命が失われており、これらの価値観がおろそかになっていることは極めて残念としか言いようがありません。

そして、現在の社会は、急速にICT/情報通信技術が発展し、AIの進化はめざましいものがあります。このようなAI時代になると、人々の多様な価値観が、社会としても個人としても更に広がるように感じています。

少子化にともない15歳から65歳までの生産人口の減少は深刻な問題で、物づくりの生産業に関わる多くの部分で機械やロボットの進出は不可避となっています。事実、多くの単純労働はロボットが行うようになっていきます。これから先、人の職業は、人は人でなければならないものに間違いなく特化することでしょう。そのような社会では人と人との繋がり、関わりが今以上に大切になります。他者を敬い、他者への誠実さや思いやりを持って生きること、そして自分と周りの人との間に信頼感がもてる関係等

に価値をもつ必要があります。物の価値観や何ができるかという能力の価値観以上に、人が人らしく生きるために「こころの価値観」が重要です。これは本学の人間力を目指す建学の精神と重なっています。二千年以上前の歴史書「史記」に記された本学の精神が、いつの時代にも求められる普遍的な精神となっていることに、本学の誇りを感じます。

更に、科学技術が極限まで発達してくる社会は、物の価値より人の「こころの価値」に向き合う社会になると、百年前に予言した偉大な科学者がいます。

相対性理論を発表したアルベルト・アインシュタインとともに「量子論の父」とも呼ばれたノーベル物理学賞受賞のマックス・プランク博士です。コンピュータや AI の理論的な基礎を築いた天才科学者の一人ですが、加えて、彼は哲学者としてもたいへん有名な人です。彼は、18 世紀末からイギリスで始まった産業革命により、生活の利便性は高まったものの、貧富の格差拡大や環境破壊など社会が大きく混乱する中で、科学技術の進化がもたらす人の価値観の変容について最初に述べた人です。プランク博士は「人類の知識が進歩するたびに、私たちの価値は、私たちが存在している内向きの心に向き合うことになる」と、予言ともとれる言葉を残されました。

皆さんが社会に出て活躍する時代は、更に科学技術は進歩するでしょう。現在の「こころ」を持たない AI が、2040 年になれば、「こころ」を持つ AI に進化すると多くの科学者は予言しています。AI が進化すればするほど、私たち人類は純粋に「こころの価値」、他者を敬うこと、他者と信頼を生む円滑な関係など、人が人らしく生きることが必要です。卒業される皆さんには、これからの社会で生きる力として、ぜひ人の内面の価値、「こころの価値観」を身につけて欲しいと思います。

全ての人々が「こころ」の価値観をもつことで、他者を傷つけたり、命を奪い合うことのない平和な社会も築くことができると、私は思っています。

いよいよ、お別れの時がきました。

本学を卒業される皆さんは、僅か 2 年を本学で過ごしたにすぎません。しかし、その期間は短くても、明らかに一人ひとりが大きく成長しました。これからの変化の激しい時代、卒業される皆さんがすばらしい人として社会で光り輝くことを願っています。

改めて、ご卒業おめでとうございます。

旅立たれる皆さんのご多幸を心からお祈りして、お別れの式辞とします。

令和 6 年 3 月 18 日 大阪成蹊短期大学 学長 紺野 昇